

(令和3年5月24日)

< ワンポイントレッスン (実践編) >

(輸入物価指数 (2))

4月の日本の企業物価指数は17日、消費者物価指数は21日に発表されました。前回の「消費者物価指数への価格波及を考える際には、国内企業物価指数と輸入物価指数を合わせて観察する」に基づき、下記の表に物価指数の動きをまとめましたが、輸入物価指数、企業物価指数が3月、4月には対前年同期比で上昇しているのに、消費者物価指数は(生鮮食料品を除く総合)は、相変わらず鈍い動き。米国がインフレを懸念している状況の中、日本は、相変わらず物価が期待した程は上昇しない動きとなっています。

(企業物価指数、消費者物価指数)

※消費者物価指数は生鮮食料品を除く総合

(単位：%)

		20年11月	12月	21年1月	2月	3月	4月
	国内企業物価指数	99.8	100.3	100.8	101.3	102.3	103.0
指数	輸入物価指数(円)	82.6	84.3	87.2	91.2	94.7	97.0
	消費者物価指数	101.2	101.1	101.4	101.5	101.8	101.5
	国内企業物価指数	▼0.1	0.5	0.5	0.5	1.0	0.7
前月比	輸入物価指数(円)	0.5	2.1	3.4	4.6	3.8	2.4
	消費者物価指数	▼0.1	0.0	0.5	0.1	0.2	▼0.5
	(為替相場ドル/円)	▼0.8	▼0.5	▼0.1	1.6	3.1	0.5
	国内企業物価指数	▼2.3	▼2.0	▼1.5	▼0.6	1.2	3.6
前年比	輸入物価指数(円)	▼10.7	▼9.8	▼7.2	▼3.0	5.7	15.1
	消費者物価指数	▼0.9	▼1.0	▼0.6	▼0.4	▼0.1	▼0.1

注) 為替は符号がマイナスの場合、円高を示す。

各指数ともに、2015年基準。消費者物価指数、前月比は季節調整済み。

直近1年間(20年3月以降では、では 国内企業物価指数は20年4月の99.4。輸入物価指数は、20年5月の72.2が底、直近4月が高値。

4月の輸入物価指数は石油・石炭・天然ガス、金属・同製品などが上昇、素原材料、中間財の上昇が目立ち、この先の価格波及に留意です。もっとも、日本の消費者物価指数は、狭いレンジ内の動きが続いており、2016年以降の生鮮食料品を除く総合指数・対前月比のレンジは、マイナス0.6からプラス0.8%に止まっています。ちなみに同期間における対前年月期比をみるとマイナス1.0%からプラス1.0%のレンジ。こちらも、いい構造変化となって欲しいものです。

(了)